

地理 問題 I

次のページの図1と図2は、同じ地域の5万分の1地形図で、図1は明治36年測量(大正2年鉄道補入)、図2は平成12年修正測量の地形図である。これらの地形図について、下の問1～5に答えなさい。

問1 図1で海岸線と鉄道路線にはさまれた場所の地形と農業的土地利用について説明しなさい。

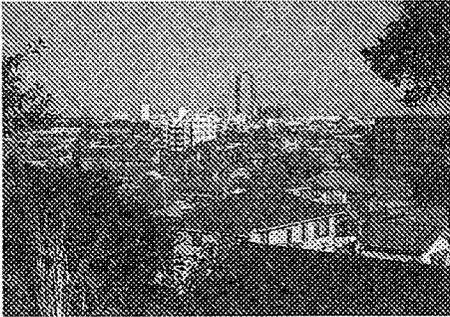
問2 図1のAの場所は、地形、及び生物の生息に関し、どのような特徴をもつか、それぞれ説明しなさい。

問3 図1と図2では、海岸線の位置が異なる。このことについて次の(1)、(2)に答えなさい。

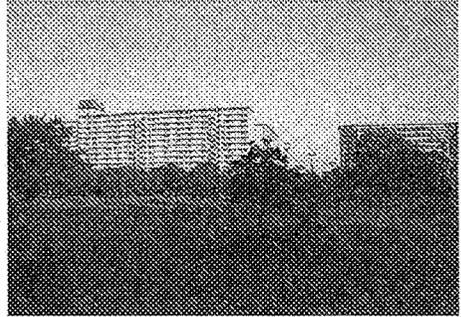
- (1) 海岸線の位置が約何キロメートル変化したか答えなさい。
- (2) なぜ変化したか。その社会的背景も含めて説明しなさい。

問 4 次のア～ウの 3 枚の写真は、図 2 の B～F のうちどの場所で撮影したのか。
それぞれに該当する場所を選び記号で答えなさい。

ア



イ



ウ



問 5 図 2 の地形図に用いられている図法名を下のア～オから 1 つ選び記号で答えなさい。

ア 正距方位図法

イ 多面体図法

ウ ボンヌ図法

エ メルカトル図法

オ ユニバーサル横メルカトル図法

地理 問題Ⅱ

次の表1は、国境の種類ごとに代表的な国境の例をまとめたものである。この表には15カ国が登場し、そのうち12カ国が空欄になっている。空欄(あ)～(し)には国名が入る。空欄(A)には河川名、空欄(B)と(C)には山脈名、空欄(D)と(E)には海峡名が、それぞれ入る。この表に関するあとの問1～4に答えなさい。

表1 国境の種類とその代表的な例

	国境で接するふたつの国	その国境
人為的 国境の 例	(あ)と(い)	北緯22度
	(あ)と(う)	東経25度
	(え)と(お)	北緯49度
	(か)と(き)	東経141度
自然的 国境の 例	(え)と(く)	(A)
	(け)と(こ)	(B)
	(さ)とチリ	(C)
	(け)とモロッコ	(D)
	(か)とマレーシア	(E)
	(こ)と(し)	ドーヴァー海峡

問 1

- (1) (B)と(C)の2つの山脈, および, (D)と(E)の2つの海峡について, それぞれの名を答えなさい。
- (2) (あ), (い), (う)の3カ国について, それぞれの名を答えなさい。通称の国名でもよい。ただし, (あ)と(う)の国は地中海に面している。

問 2 (え)と(く)の2国は, ともに, (A)の河川が注ぐ湾に面している。

- (1) この湾の名を答えなさい。また, (え)の国と(A)の河川について, それぞれの名を答えなさい。
- (2) (え)の国において, この湾の沿岸域で見られる工業にはどのような特色があるか, 答えなさい。

問 3 (さ)の国の首都は, 南米有数の河川の河口部にある。

- (1) この河川の名を答えなさい。
- (2) この河川の流域には肥沃な草原地帯が広がっている。この地帯における農業にはどのような特色があるか, 次の語句をすべて用いて答えなさい。

ヨーロッパ 乾 燥 湿 潤

なお, これらの語句を繰り返し用いてもよい。ただし, 用いた語句には下線をひくこと。

問 4 下の図1は、表1の(お)~(し)の8カ国について、それぞれ人口(単位は百万人)と国民総所得(単位は十億ドル)をグラフに示したものである。このグラフ中の①~⑧が、表1の(お)~(し)のいずれかの国にあてはまる。

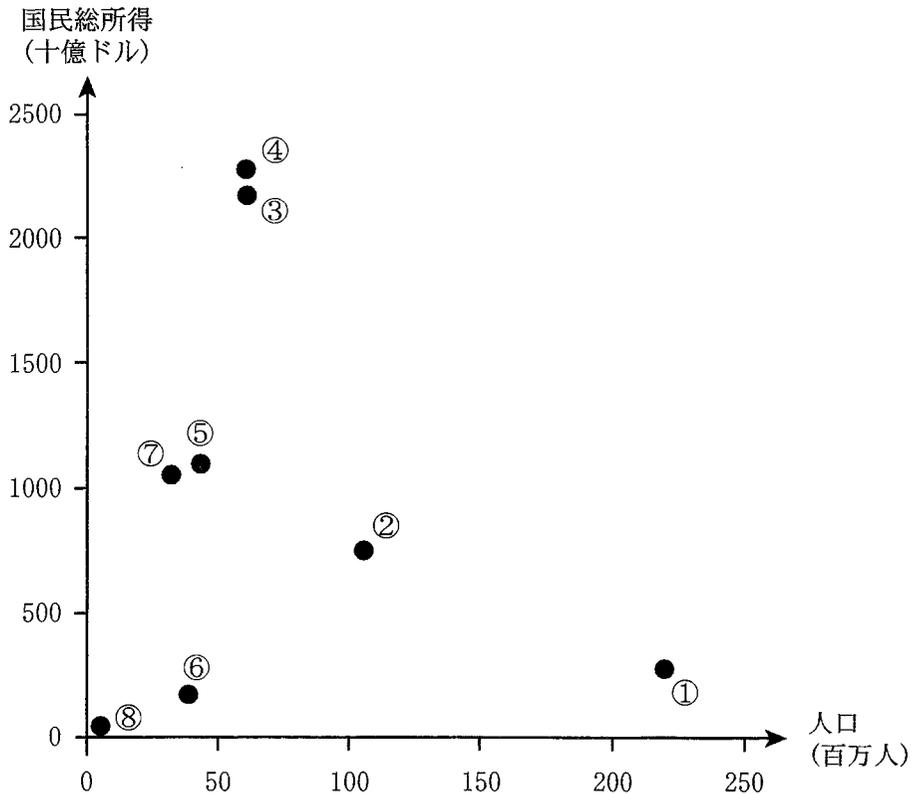


図1 各国の人口と国民総所得

(矢野恒太記念会『世界国勢図会 2007/2008年版』により作成)

- (1) 図1の②と⑦の2カ国は、表1の(え)の国とともに、1994年に自由貿易を促進するための協定を開始した。その協定名の略称をアルファベットで答えなさい。
- (2) 図1の③と④の国について、③の国の人口密度は、④の国の人口密度のおよそ半分である。表1の空欄(お)~(し)の国は、それぞれ、図1の①~⑧のいずれにあてはまるか、①~⑧の記号で答えなさい。

地理 問題Ⅲ

日本の食糧問題について、次の問1～5に答えなさい。

問1 下の表1は、魚介類、野菜およびア～ウの産品について日本の食料自給率の推移を試算したもの、表2は、水産物および表1のア～ウの産品について2009年の輸入相手国金額を示したものである。表1と表2のア～ウに入る農産物を下のA～Iから選び記号で答えなさい。

- A. 米 B. 小麦 C. 大麦 D. いも類 E. 豆類
 F. 果実 G. 牛肉 H. 豚肉 I. 鶏肉

表1

(単位：%)

	1960	1970	1980	1990	2000	2008
魚介類	108	102	97	79	53	53
野菜	100	99	97	91	81	82
ア	102	106	100	100	95	95
イ	100	84	81	63	44	41
ウ	96	90	72	51	34	44

〔農林水産省 食料需給表〕

表2

(単位：百万円)

順位	ア		イ		ウ		水産物	
1	a	40,526	フィリピン	98,689	オーストラリア	133,560	c	221,401
2	b	10,782	a	59,786	a	34,556	a	115,581
3	c	7,304	ニュージーランド	20,267	ニュージーランド	10,312	チリ	110,230
4	パキスタン	47	メキシコ	12,040	メキシコ	4,106	b	103,522
5	インド	23	南アフリカ	5,584	カナダ	3,819	ロシア	96,106

〔財務省 貿易統計〕

問 2 表 2 の a～c に入る国名を答えなさい。

問 3 表 1 において魚介類の自給率が減少した理由としてどのようなことが考えられるか述べなさい。

問 4 次のページの図 1 は 2005 年の東京都中央市場におけるカボチャ入荷量の月別推移, 図 2 はトンガの伝統的農家(左)とカボチャ栽培農家(右)の農地利用を示したものである。表 1 において野菜の自給率が低下した理由の一つとして図 1 に示したカボチャのような古くから日本で栽培されてきた作物の輸入が開始されたことがあげられる。カボチャ輸入の特徴, および図 2 に示した現地の農地利用変化について[]内の語句を必ず使って説明しなさい。なお, 使用した語句には下線を引くこと。

[周年供給, 南半球, モノカルチャー]

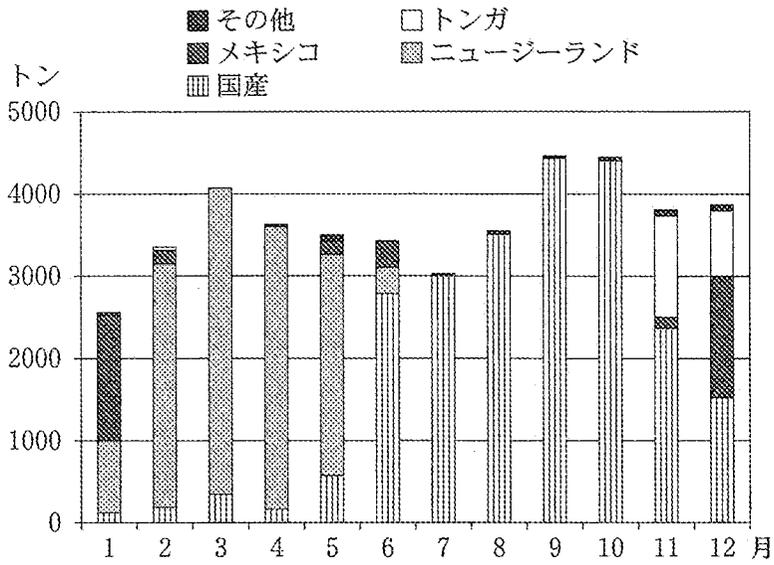


図1

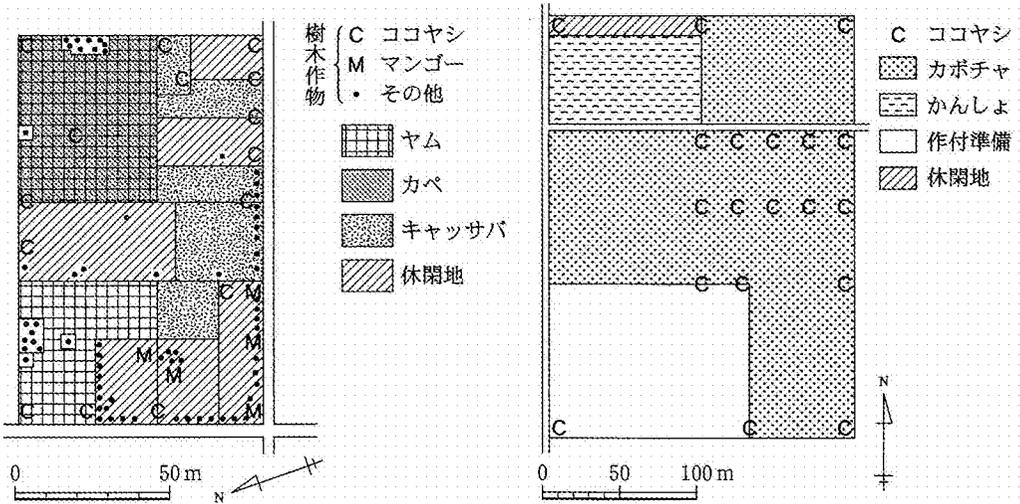


図2

[犬井正(1996)現代日本のアグロトレードを読む, 高橋他編『ジオグラフィ入門』, 古今書院, pp. 96~99 を一部加工]

問 5 国民 1 人 1 年あたりの供給純食料の推移を示した以下の図 3 を参考にして、日本の農水産物輸入増加の要因を食文化の変容の視点から説明しなさい。

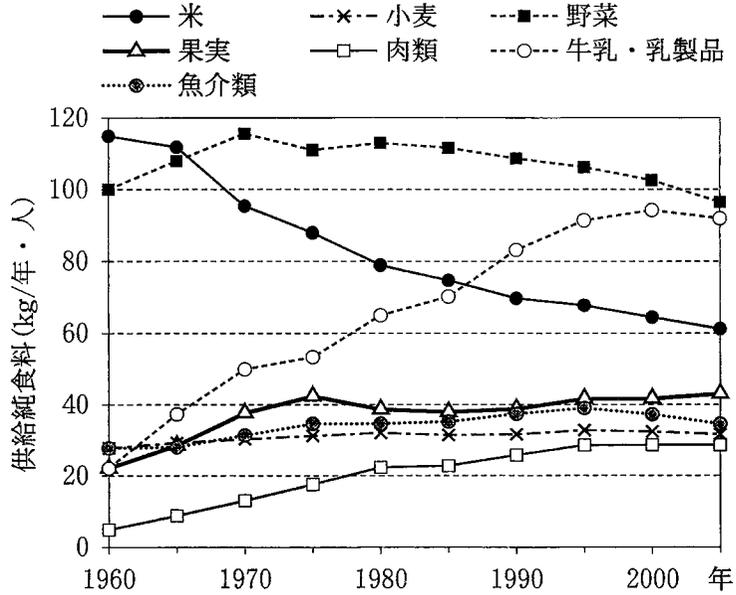


図 3

注：供給純食料とは、人間の消費に直接利用可能な量のこと。通常の食習慣において廃棄される部分(魚の場合は骨や頭、果実の場合は皮や芯など)を差し引いた後の可食部分のことである。

[農林水産省 食糧需給表]

地理 問題Ⅳ

身近な地域の調査に関する次の文章を読み、下の問いに答えなさい。

N大学地理学教室は毎年合同野外調査を行っている。以下に示すのは最近行われた8か所での学生たちの調査テーマをそれぞれ3点ずつ選んだものである。

A市とその周辺地区

- ① A盆地における過去の湖水域変化と古環境について
- ② A湖における漁労
- ③ A湖周辺の高齢者の就業状況と地域の対応

B市とその周辺地区

- ① 北上川下流低地北部の古環境
- ② B市における小学校区の変遷
- ③ 日本三景(ア)の現状について

C市とその周辺地区

- ① (イ)県南予地方における観光農園の現状
- ② 近世C藩の村落における世帯構成
- ③ C地方における闘牛

D市とその周辺地区

- ① D開港当時の居留外国人
- ② Dにおけるイカ釣り漁
- ③ 出店者の行動からみたD朝市の機能と構造

E市とその周辺地区

- ① E市周辺の熊害
- ② E市の気象とやませ
- ③ 新幹線終着駅の成立(2002年)と地域活性化

F市とその周辺地区

- ① 川辺川ダム計画崩壊のメカニズム
- ② 球磨焼酎のブランド形成
- ③ (ウ)病と有機水銀公害問題

G市とその周辺地区

- ① G市中心商店街におけるまちづくりへの取り組み
- ② G新幹線開業とそのメリット
- ③ 大潟村の農家における結婚事情

H市とその周辺地区

- ① 軍港Hの海軍と地域住民
- ② 斜面市街地の都市計画と再生
- ③ (エ)県H市下蒲刈町における生鮮行商人

問1 A～Hの都市の位置を図1に記載の番号で答えなさい。

問2 上記の文章中の(ア)～(エ)の地名または県名を答えなさい。

問3 図1でa, b, cで示した3地域のどこかで調査すると仮定する。そのうちの2地域を選び、調査テーマを上記のN大学生のテーマを参考にして記しなさい。さらにその調査の研究目的と内容の特徴を記しなさい。



図 1